

| | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----|----|----------|---|----|-------------------------------------|-----|----|----|---|
| 2020年度 日本工学院八王子専門学校 | | | | | | | | | | | |
| コンサート・イベント科 | | | | | | | | | | | |
| 音楽基礎 1 | | | | | | | | | | | |
| 対象 | 1年次 | 開講期 | 前期 | 区分 | 必 | 種別 | 講義 | 時間数 | 30 | 単位 | 2 |
| 担当教員 | 根本英子 | | | 実務 経験 | 有 | 職種 | ピアニスト/FMパーソナリティ/中学高等学校講師(音楽) 音楽教室講師 | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| この授業では、必ずしも音符を読むということのみならず、あらゆる要素から楽譜が追えるようになるよう、リズム・テンポや拍子・音楽用語等、幅広く音楽基礎知識を養う。そして実践に役立つよう、楽譜を追いながら楽曲を聴くなど、音楽と親しむ。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 演奏されている楽曲の部分が、楽譜においてどこになるのかが分かるようになるために、音楽の基礎を学習する。単に音符を追うということのみならず、各種記号、音楽用語、拍子など、多様な要素から楽譜にアクセスできることを目標とする。また、そのためには机上での学習のみならず、リズム課題を手拍子等で演奏することなど、実践的な方法でも楽譜を読む力を養う。 | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | | | | | | | | | | | |
| 必ずしも音符を読むということのみならず、あらゆる要素から楽譜が追えるようになるよう、リズム・テンポや拍子・音楽用語等、幅広く音楽基礎知識を養う。そして実践に役立つよう、楽譜を追いながら楽曲を聴くなど、音楽と親しむ。また、音楽の基礎知識の一つとして、さまざまなジャンルに引用されているクラシック音楽に触れる機会を持つ。プロミュージシャンとの現場において自信が持てる人材育成を目指す。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | | | | | | | |
| *試験と課題を総合的に評価する *積極的な授業参加度、授業態度によって評価する | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | | | | | |
| 音楽はあらゆる要素が絡み合っているため、一度休むと理解が困難になる場合がある。やむを得ない場合を除く遅刻・欠席などは極力避けることが望ましい。社会人として基本的なルールを身につけるために、授業態度については厳しく対応する。自ら考え、答えや結果が導きだせるよう、自主的で積極的な学習態度で受講することが望まれる。配布されるプリントは紛失しないように気を付けること。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書教材 | | | | | | | | | | | |
| 楽譜の読み方 授業時に配布されるプリント | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業計画 | | | | | | | | | | |
| 第1回 | この授業で学ぶこと：音楽専門学科ではないのに、音楽の基礎を学ぶということについて理解する | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 楽譜に触れる：写譜をしてみることで、楽譜というものに触れてみる | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 楽譜の仕組み：写譜をしたものを参考にしながら、楽譜を構成する要素を知る | | | | | | | | | | |

音楽基礎 1

| | |
|------|--|
| 第4回 | 音名について：楽譜を学ぶにあたってまず必要な音の名前を知る |
| 第5回 | 音符・休符：音符・休符の形、名称、長さなどを知る |
| 第6回 | 変化記号について：＃・♭その他の変化記号について理解する |
| 第7回 | 第6回までの復習：小テストなどにより、理解度をチェック |
| 第8回 | 拍子について：拍子の役割や種類などを知る |
| 第9回 | リズムについて：実際にリズム打ちなどしながら、リズムが読めるように（以降、リズム打ち練習は随時実施） |
| 第10回 | 省略記号：繰り返しなどの記号について理解する |
| 第11回 | 楽語について：必要最小限の楽語を知る |
| 第12回 | 楽器の名前：記譜やステージの配置図などに用いられる楽器の名前の書き方を知る |
| 第13回 | 楽曲研究①：楽譜を見ながら曲を聴き音と楽譜の関係を理解する |
| 第14回 | まとめ：試験範囲の確認 積極的に質問するなどし、試験に備える |
| 第15回 | 試験後の復習：試験内容解説から前期の復習をし、後期に備える |